

2023年度 考古学コース発掘実習 参加記

青山学院大学文学部史学科考古学コースでは、毎年、夏休み期間中に秋田県横手市で発掘実習を行っています。令和5年度は、9月上旬に横手市の十足馬場南遺跡で約1週間、発掘調査に参加させていただきました。考古学コースの2年生14名、3年生15名、4年生1名、大学院生2名が参加しました。

今回は横手市教育委員会、雄勝城・駅家研究会、青山学院大学の三者による連携調査が行われました。十足馬場南遺跡は雄勝城の推定地として調査が進められています。雄勝城は秋田県雄物川流域にあったとされる古代の城柵です。



発掘調査の様子（右側の黒色土が大溝跡）

今回の調査では雄勝城・駅家研究会代表の高橋学先生や、横手市教育委員会の皆様のご指導のもと、表土掘削や遺構確認、遺物あげ、図面の作成などを行いました。スコップやジョレン、移植ゴテを使って土を掘り下げ、土の色や粒子、混入物を観察し、遺構を検出していきました。今回の調査では、大溝や柱穴、竪穴住居と考えられる遺構が検出されました。



スコップやジョレンを使って掘削を行う学生



移植ゴテを使って遺構検出を行う学生



調査風景

今回初めて発掘に参加する学生も多く、炎天下や雨の中、慣れない道具を使った作業はなかなか大変でしたが、遺構や遺物を発見する楽しさを感じながら調査を進めていきました。

発掘実習が終わった後も、大学での作業は続きます。今回の調査で出土した遺物は、考古学実習という授業の中で洗浄などの作業を行いました。また、採取した土のサンプルのフローテーションを行い、炭化イネを確認しました。

横手市教育委員会の皆様、雄勝城・駅家研究会の高橋先生には大変お世話になりました。また、実習期間中は、横手市長高橋大様や市民の皆様、研究者の皆様など、多くの方々が見学訪問に来て下さり、激励のお言葉や差し入れを戴きました。今回の発掘実習においてご指導・ご協力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

(考古学コース3年 野村)